

1 be動詞を使うことは忘れる

日本語の最も基本的な文型である「AはBだ」を、英語に直訳しようとする、ふつう日本人は、A is B. という英語を無意識に頭に浮かべ、発作的にそれを口に出して言う。それがあなたの英語を意味不明で役立たずのものにしてしまっているのだった。それは前章でもざっと見たが、ここでももう一度細かく見てみよう。

たとえば、次の文はどうだろうか？

〈1〉

あなたは遊園地ではしゃぐ恋人に向かって、「ジェットコースターは絶対乗らないよ」と言う。これを英語にすると、どうなるだろうか？

- (1) I will not ride the roller coaster.
- (2) The roller coaster is what I will not ride.

日本語の主語の「ジェットコースター」を、英語でも主語にするには無理がある。(2)の文は英米人の誰も言わない。

そうではなく、日本文には出てこない「わたし」を英語の主語の位置に登場させる必要があるのだった。その結果、対応する英語では

S (=わたしが) + V (=乗り回す) + O (=ジェットコースターを)

という構造になる。

《解答》

- (1) ○
- (2) × (文法的には合っている、英米人の誰も言わない文だから)

〈2〉

あなたは取引先の会社に書類を届けるため山手線に乗って出かけた。降りた駅のホームで、外国人が2人タバコを吸っていた。「駅のホームは禁煙だよ」とあなたは言う。さて、どう言ったらよいか？

- (1) Excuse me, but the platform in the station is not good for smoking.
- (2) Excuse me, but you can't smoke on the platform in the station.

この文において、「駅のホーム」を英語の主語にすることばを言い始めると、(1)の文のようにせざるをえないが、表しているのは「駅のホームはタバコを吸うにはよい場所ではない」、つまり、もっともっと喫煙に適した場所がある、という意味である。公園とか海辺とか山頂とかの方がタバコがうまい！

そうではなくて、駅ホームでは喫煙が禁じられている、とはっきり表現すべきである。

簡潔な日本語表現である「禁煙です」を英語にするときには、

- You are not supposed to smoke.
(タバコは吸ってはいけないことになっている)
- You can't smoke.
(タバコは吸ってはいけない)